2014 年度人間中心設計（HCD）専門家資格認定制度
申請書類の書き方

人間中心設計推進機構（HCD-Net）認定人間中心設計（HCD）専門家および認定人間中心設計（HCD）スペシャリスト資格への応募申請書類には、ABC３タイプ８種類の書式があります。

A 受験申込書
- A-1 基本情報
- A-2 学歴・職務経歴書

B 実践活動記述書
- B-1 プロジェクト経歴／業務履歴
- B-2 プロジェクト記述書
- B-3 コンピタンス記述書

C 参考資料
- C-1 教育履歴（大学／大学院コース、HCD 関連科目、学会セミナー等）
- C-2 論文・著作（自由記述）
- C-3 作品、成果物（自由記述）

HCD 専門家も HCD スペシャリストも上記 A から C までの書類の種類は同じです。
「B-3 コンピタンス記述書」に記述すべきコンピタンスの範囲だけが異なります。

認定試験の受験のためにご提出いただくそれぞれの書類は、**以下に示す説明と記入例を参照の上、正確に記入してください。**

A 受験申込書

受験申請期限(2014 年 12 月 31 日)までに提出する書類は A1 と A2 です。

A1

認定「人間中心設計(HCD)専門家」

人間中心設計（HCD）専門家 認定試験受験申込書

受験番号：

希望受験区分に○をつけてください　　20　年　月　日現在
1. 認定人間中心設計専門家受験
2. 認定人間中心設計スペシャリスト受験

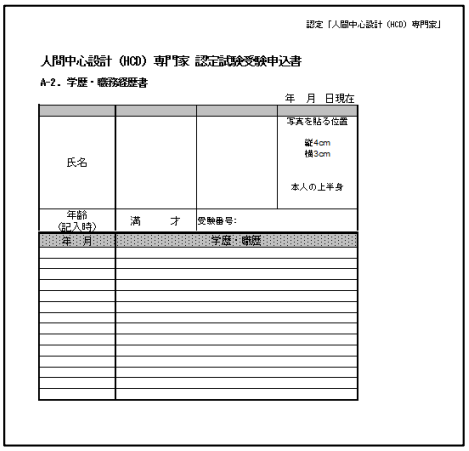
A-1. 基本情報

ふりがな		
氏名		
性別	□男	□女
所属		
役職		
所在地	〒	
電話番号		
自宅住所	〒	
電話番号		
書類送付先	□所属組織	□自宅
連絡先 電子メール	@	

以下の申請内容に虚偽がないことを宣誓します。

（署名）

A2


認定「人間中心設計（HCD）専門家」

人間中心設計（HCD）専門家 認定試験受験申込書

A-2. 学歴・職務経歴書

年　月　日現在

氏名			写真を貼る位置 縦4cm 横3cm 本人の上半身
年齢（記入時）	満　　才	受験番号:	
年　月	学歴・職歴		

（書式はサンプル画像です。実際とは多少異なる場合があります）

受験区分(A-1)
希望する受験区分に〇をつけてください。

なお、HCD 専門家受験希望で、HCD 専門家としては一定水準に至っていないが HCD スペシャリストの要件を満たしている場合は、HCD スペシャリストとして認定される場合があります。

A-1 基本情報
住所および電話番号、電子メールアドレスは、確実に連絡ができるものを記入してください。
「受験申し込み」でアップロードするときは、最後にある署名は空欄で構いません。
受験申し込み後（応募受理通知書を受け取り後）、申請書類一式を郵送する際に、印刷した書類に自筆で署名してください。

A-2 学歴・職務経歴書
写真は、証明写真に準じた写真（紙）または画像（データ）を貼り付けてください。
- 肩から上の顔写真
- 帽子、マスク、サングラスは着用しない
- 背景は無地

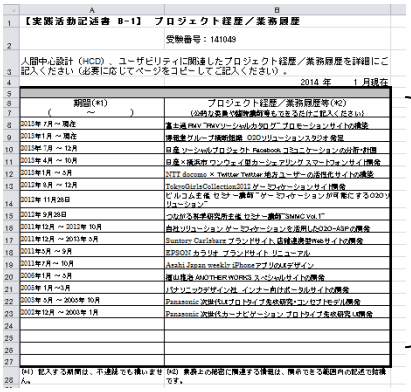
「受験申し込み」でアップロードするときは、**受験番号は空欄のまま**でお願いします。
写真（紙）を利用する場合は空欄のままで結構です。
学歴は、最終学歴（大学院終了の場合には、学部卒から）を記入してください。
申請書類一式を提出する際に、受験番号欄にお知らせした受験番号を記入し、写真（紙）を利用する場合は貼り付けてください。

B 実践活動記述書
認定の合否を判断する重要な記述書です。申請書類一式の提出期限(2015 年 1 月 25 日)までに提出してください。
以下に示す説明と記入例サンプルを十分参照の上、正確かつ慎重に記入してください。

B-1 プロジェクト経歴／業務経歴
HCD/UXD やユーザビリティに関連したプロジェクト経歴および業務歴を仕事上の守秘義務に反しない範囲で記入してください。
「プロジェクト」とは、製品・システム・サービス、設計環境整備、手法研究など様々な人間中心設計にかかわる業務活動を指します。
記入する期間は、不連続でも構いません。

B-2 プロジェクト記述書
「プロジェクト記述書」には、B-1 に記述したプロジェクトの中から、3 件以上 5 件以下を記入してください。あなたが参画した HCD/UXD やユーザビリティに関わる具体的なプロジェクト経験を、該当する記載項目に記入してください。
5 件を越えて記入してあっても、6 件目以降は審査の対象になりません。

B-1


【実践活動記述書 B-1】 プロジェクト経歴／業務履歴

受験番号：141049

人間中心設計（HCD）、ユーザビリティに関連したプロジェクト経歴／業務履歴を詳細にご記入ください（必要に応じてページをコピーしてご記入ください）。

2014 年 1 月現在

期間(*1)	プロジェクト経歴／業務履歴等(*2)
（ ～ ）	（分かる範囲で簡潔に書いてもらえるだけご記入ください）
2013年7月～現在	富士通 FMV "FMVソーシャルカタログ" プロモーションサイトの構築
2013年1月～現在	情報家グループ規制推進 O2Oリリューションスタジオ発足
2012年7月～12月	日産 ソーシャルプロジェクト Facebook コミュニケーションの分析・計画
2012年4月～10月	日産×横浜市 ワンウェイ型カーシェアリング スマートフォンサイト開発
2012年1月～3月	NTT docomo × Twitter Twitter地方ユーザーの活性化サイトの構築
2012年9月～12月	TokyoGirlsCollection2012 ゲーミフィケーションサイト開発
2012年 11月26日	ビルコム主催 セミナー講師 "ゲーミフィケーションが可能にするO2Oソリューション"
2012年9月28日	つながる新手研究所主催 セミナー講師"SNMC Vol.1"
2011年12月～2012年10月	自社リリューション ゲーミフィケーションを活用したO2O-ASPの開発
2011年12月～2013年5月	Suntory Carlsbare ブランドサイト、店舗連携型Webサイトの開発
2011年5月～9月	EPSON カラリオ ブランドサイト リニューアル
2011年7月～10月	Asahi Japan weekly iPhoneアプリのUXデザイン
2006年1月～5月	渡山隆治 ANOTHER WORKS スペシャルサイトの開発
2005年1月～5月	パナソニックデザイン社 インナー向けポータルサイトの開発
2003年5月～2005年10月	Panasonic 次世代ムプロトタイプ系統研究・コンセプトモデル開発
2002年12月～2003年1月	Panasonic 次世代カーナビゲーション プロトタイプ系統研究UI開発

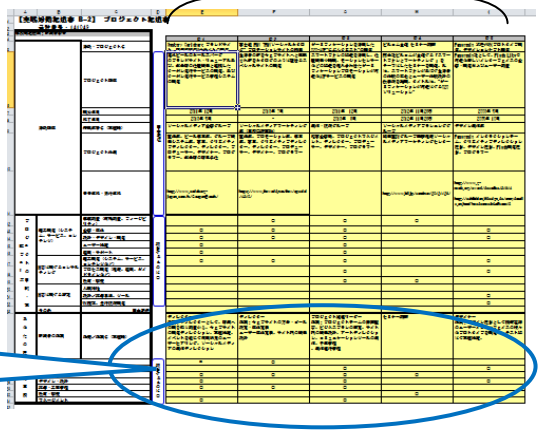
(*1) 記入する期間は、不連続でも構いません。

(*2) 業務上の秘密に関連する情報は、開示できる範囲内の記述で結構です。

ここに記述したプロジェクトから、コンピタンスの根拠を記述しやすいものを選んで、B-2 の P1～P5 として記述する　　**3 件以上 5 件まで**

P1～P5

B-2



ここの○がついている担当業務において、あなたが発揮したコンピタンスを B-3 で記述することになります

◆審査のポイントは、参画したプロジェクトを通じてどのようなコンピタンスを発揮したか、です。

- この「B-2 プロジェクト記述書」は、実際にどのような活動の中でコンピタンスが発揮されたかを知るためのものです。「B-3 コンピタンス記述書」は、ここに挙げたプロジェクトを対象として記述します。
- **HCD の専門家のコンピタンス**（別紙：「人間中心設計（HCD）専門家のコンピタンスマップ」参照）**をできるだけ幅広く含むようにプロジェクトを選んでください。**
  5 件を越えて記入してあっても、6 件目以降は審査の対象になりません。
- 基本は書類審査ですが、申請者によって実際にその活動が行われたかどうかを『活動歴を証明できる方』に確認する場合もあります。

B-2「記載項目」の書き方

（１）活動概要

1-1）活動・プロジェクト名

製品・システム・サービス、設計環境整備、手法研究など様々な HCD/UXD やユーザビリティにかかわる業務活動を指して「プロジェクト」と呼びます。内容を表す名称を記述してください。

実際の商品名などが出せない場合は、どのような活動かわかる範囲で抽象化した名称にしてください。

例：「○○社向けカーナビゲーションの組み込み取説の開発」
　　→「カーナビゲーションの新機能開発」、「車載機器のガイダンス機能開発」等

開発や研究の一部だけを担当していた場合は、あなたの担当した活動を表す名称にしてください。

例：△△市の電子入札システムの改編プロジェクトの中の現状調査のみ
　　→「自治体電子入札システムのユーザー利用状況分析」等

1-2）プロジェクト概要

どのような活動だったのか、概要を記述してください。その際、特に HCD に関してやユーザビリティ面でどのようなことを目的・目標にしていたかを明示してください。また大きな開発・研究の一部を担当していた場合は、全体の期間・規模も記述してください。

1-3）開始年月

あなたがプロジェクトに参画した時期を記述してください。プロジェクトの正式な発足前からあなたがこの業務に着手していた場合はその時期、正式メンバーに指名されてから活動開始した場合は指名された時期、途中から参画した場合はその年月を記述してください。

1-4）終了年月

あなたがプロジェクトの活動を終了した時期を記述してください。プロジェクトの終了後も継続的なフォローなどが定常業務になっている場合は、年度で区切ってください。

1-5）所属機関名（実施時）

1-6）所属部署名（実施時）

1-7）プロジェクト体制

差し支えない範囲で、プロジェクトの大きさとその中でのあなたの位置づけがわかるように記述してください。プロジェクトの人員、関係部門など。

1-8）参考資料・添付資料

本プロジェクトにかかわる公開資料がありましたらその代表となるものを記述してください。学会発表、機関誌発表、などはその参照文書名を記述してください。製品カタログなどの場合は該当ＵＲＬ記述してください。

関連する公開資料がたくさんある場合は「C　参考資料」に記述してください。

（２）活動歴を証明できる方

申請者によって実際にその活動が行われたかどうかを『活動歴を証明できる方』（上司、一緒に働いた同僚、部下、取引先など）に確認する場合もあります。対応していただける方の連絡先を具体的に記述してください。

確認の連絡は、記述があいまいな場合や、記載内容に疑問点がある場合に行われる予定です。プロジェクトの中で申請者の果たした役割が具体的に記述されていれば、問い合わせをすることはほとんどありません。

（３）プロジェクトの目的・実践フェーズ

プロジェクト全体の事柄について、当てはまるものに〇をつけてください。ただし、これは、〇の数を競うものではありません。技術開発から商品開発まで一貫した活動に携わった場合はたくさん当てはまり、ガイドライン作成のようなインフラ整備の活動の場合は当てはまるものが少なくなります。

3-1）商品開発（製品、システム、サービス、コンテンツ）

・事前調査
市場調査、先行商品の利用実態調査、フィージビリティーなどを含みます。

・企画・要件
商品のコンセプトを決め要件定義をするフェーズです。コンセプト検証などを含みます。

・設計・デザイン・開発
要求仕様書をはじめ、具体的なデザイン・設計をするフェーズです。プロトタイプ検証による設計改善や取扱説明書やヘルプコンテンツの制作などを含みます。

・ユーザー検証
商品または商品の最終形に近いものでのテストをするフェーズです。ユーザーによるベータ版テスト、発売後のユーザー調査などを含みます。

・運用・サポート
発売または運用後の活動フェーズです。定常的な長期モニター活動などを含みます。

3-2）HCD/UXD、ユーザビリティに関するコンサルティング

・商品開発（製品、システム、サービス、コンテンツなど）
商品開発にあたって、HCD/UXD 活動やユーザビリティに関する現状分析・提案などのコンサルティングをするフェーズです。ロードマップ作成など将来をターゲットにした活動を含みます。

・プロセス開発（組織、運用、ガイドラインなど）
HCD/UXD 活動促進のための組織や運営体制のコンサルティングや、ユーザー体験、ユーザビリティ向上のためのガイドラインを作成するフェーズです。これらの活動をするための調査活動を含みます。

・教育・啓蒙
HCD/UXD やユーザビリティに関する知識や技術を伝達するフェーズです。一般の講習会、社内講習会、プロジェクト関係者に対するセミナーやワークショップ及び後輩育成などを含みます。また教育機関での学習プログラムの開発なども含みます。

3-3）HCD/UXD やユーザビリティに関する研究

・人間特性
HCD/UXD やユーザビリティにかかわる人の身体特性・認知特性・社会特性など明らかにする研究を指します。

・設計／評価手法、ツール
HCD/UXD 活動やユーザビリティを向上させるための設計手法、達成度を評価するための評価・分析手法の研究及びそれらをサポートするツール開発を指します。

・UI 提案、先行技術開発
UI やユーザビリティの向上にかかわる新技術・新方式の研究開発を指します。

3-4）その他

上記に含まれないプロジェクトに関しては、自由記述してください。

（４）あなたの担当した業務

4-1）申請者の役割（役職／役割名）

プロジェクト内でのあなたの役職、または役割の名称と概要を自由記述してください。
この項目は「B-3 コンピタンス記述書」の採点でコンピタンスの発揮を判断する際の手がかりとなります。プロジェクトのリーダーだったのか、補佐として調整役を担っていたのか、仕様設計の担当だったのか、実装・デザインの担当だったのかなど、具体的な役割がわかるように記述してください。

以下、あなた自身が担当・実践した業務について、当てはまるものに○をつけてください。
プロジェクト全体では実施していても、あなたが担当していない項目は除外してください。

4-2）コンサルティング

- ユーザー体験、ユーザビリティ向上や、HCD プロセスへの取り組みを支援し、組織への定着を図る。プロセス導入のコンサルティングから、HCD プロセス上の各活動のコンサルティングまで状況に応じた支援を行う。

4-3）研究・開発

- HCD プロセスやユーザー体験、ユーザビリティに関連した調査、評価、設計手法など、HCD/UXD 活動そのものに関する R&D を行う。プロセスの見直し、定量的ベンチマーク指標の作成など、開発現場に HCD/UXD 活動を定着させるための取り組みを行う。
- ユーザー体験、ユーザビリティ向上を主眼とした製品やサービスの R&D を行う。各種デバイスや GUI オブジェクトの分析や開発、また新規インタラクションやデザインの開発を行う。

4-4）調査・企画

- ユーザーの生活実態や製品の利用状況といった、現在の社会およびユーザーの状況に関する調査、分析、ユーザーのモデル化などを行う。調査には主にアンケート、インタビュー、行動観察などの手法が用いられる。また、モデル化にはワークモデル、動線解析、ジャーニーマップなどが用いられる。
- 各種メディア、展示会や講演会、学会などを通じた情報収集を行い、対面やネットワーク媒体などを通じて HCD/UXD 関連の情報提供を行う。
- ユーザー調査の結果に基づいて、ユーザー体験、ユーザビリティ品質の高い製品やサービスのコンセプトまたは仕様の提案を行う。

4-5）デザイン・設計

- 製品・システム・サービスの要求仕様作成および検討、デザイン・設計を行う。
- 仕様作成及びデザイン・設計過程で、ユーザー要求を設計案やデザイン案において実現するため、あるいは実現されていることを確認するために、確認フェーズに合ったプロトタイプを作成し、検証する。

4-6）評価・品質管理

- 製品、システム、サービスをユーザーに提示することにより、評価対象がユーザーに適しているかどうかを判断するテストやHCDの専門知識を使ったインスペクションを行い、設計へのフィードバックおよびユーザビリティ品質の管理を行う。
- 製品、システム、サービスが使用されているフィールドで利用実態の観察またはログなどを取得し、長期にわたる評価を行う。

4-7）教育・啓蒙

- プロジェクトメンバーまたは他部署の業務担当者に対して人材育成のための教育、研修活動を行う。内容は、一般的なユーザビリティ概念や HCD/UXD の考え方から、実際に活動を行っていくために必要な要求分析や評価といった手法まで幅広い。
- 各種関係部署のマネジメントや業務担当者に対して HCD/UXD やユーザビリティの重要性について啓蒙を行う。

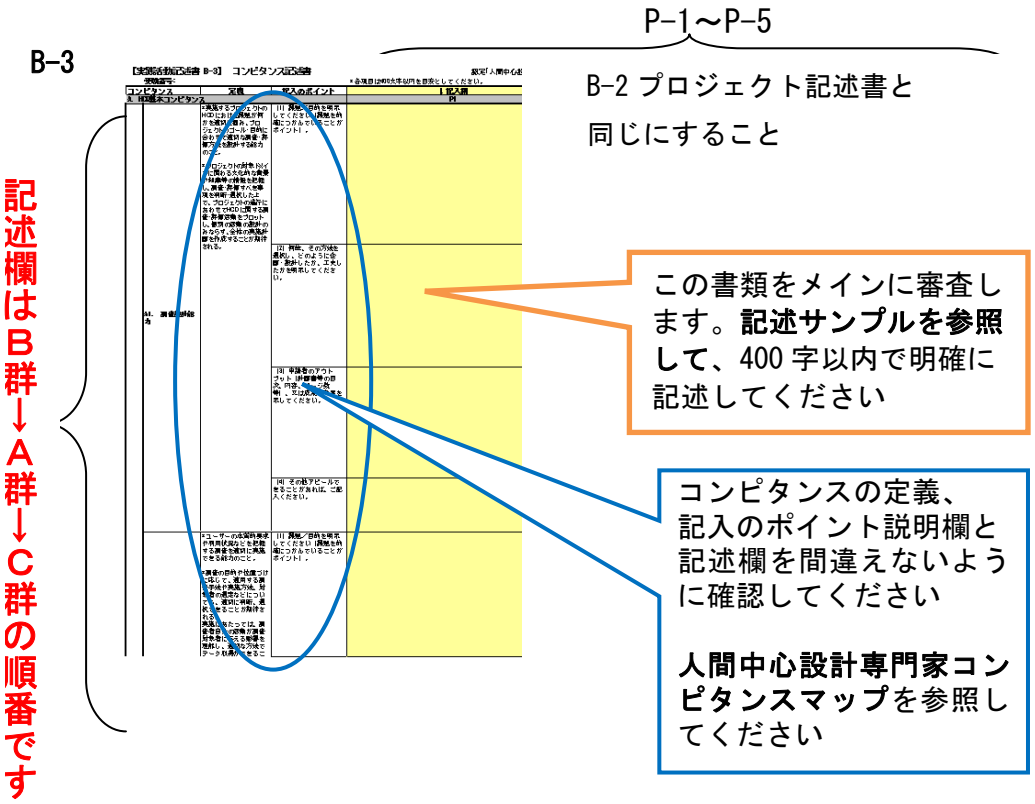
4-8）マネジメント

- HCD/UXD やユーザビリティ活動を担当する組織のマネジメントを行う。

B-3 コンピタンス記述書

「B-2 プロジェクト記述書」に書いたプロジェクトでのコンピタンスの発揮について記入します。

- **「B-3 コンピタンス記述書」の内容が主な審査対象になります。**



「コンピタンス記述書」の中にはコンピタンス項目毎に「定義」および「記入のポイント」が記述されています。その内容を確認の上、それぞれのプロジェクトで申請者自身がどのようなコンピタンスを発揮したかを簡潔に記入します。

- 実施したことが書かれているだけでは不十分です。各項目に書かれているポイントを明示的に示してください。どのコンピタンスも、課題をどのように把握し、どのような工夫で解決したかがポイントになります。
- 申請者自身が能力を発揮したことがわかるように記述してください。いつ、何に対してどのような役割を果たしたかが記述されていること、そして申請者が主体的に実施したことがわかること（複数名で実施した場合には、全体の中でどの部分をどのくらい担当したかがわかること）がポイントになります。
- 申請者自身が実際に実施したことが読み取れるよう、教科書的な一般的記述ではなく、プロジェクト固有のポイントを具体的に記述してください。守秘義務の関係でシステムやクライアントについて具体的に書けない場合は、利用した HCD の技術・知識、HCD 業務を進める上での工夫などに焦点を当てて記述してください。
- １つのコンピタンスについて、（１）～（６）くらいまでセルに分けて記述するようになっています。１セルあたり 400 文字以内で記述してください。

この各セルの内容全体を見て、該当コンピタンスが発揮されたかどうかの判断をします。
審査では次のような視点でコンピタンスの発揮を読み取ります。

- 各コンピタンスに応じた内容が記述されており、コンピタンスの発揮が実証されているか。
- コンピタンス発揮の根拠が読み取れるか。（活動のアウトプットは何か、成果／効果はどうだったのかを B,C の申請書類全体から判断します）
- 各プロジェクトで課題の抽出・解決が適切になされているか、複数のプロジェクトで合理的に活動しているかなど。

記述したプロジェクト（P1～P5）のうち、一番高い得点のついたものがそのコンピタンスの得点となります。１つのプロジェクトで全てのコンピタンスをカバーする必要はありません。ユーザー調査に力点をおいたプロジェクト、プロジェクト運営に力点をおいたプロジェクトなど、申請者の役割が異なるいくつかのプロジェクトの記述あわせて、できるだけ多くのコンピタンスを記述してください。

◆業務上の秘密に関連する情報は、開示できる範囲内の記述で結構です。
　コンピタンス記述書」はなるべく具体的に書いてください。できれば既に対外発表しているなど、公開の制約が少ないプロジェクトを優先的に選んでいただくのが望ましいです。

コンピタンス項目には、「必須項目」と「参考項目」の２種類があります。
「必須項目」
HCD スペシャリスト：
「A 群:HCD 基本コンピタンス」から６項目以上必要です。　<u>※A 群の記述だけでけっこうです</u>

HCD 専門家：
「A 群:HCD 基本コンピタンス」の中から７項目以上、および「B 群:プロジェクトマネジメントコンピタンス」と「C 群:導入推進コンピタンス」の中から各１つ以上かつ合計３項目以上必要です。　<u>※A、B、C 群にわたっての記述が必要です。</u>

「参考項目」「L：テクニカルコミュニケーション能力」のカテゴリーは、審査の際の加点対象となる参考項目です。各プロジェクトにおいて、どのように関連項目の能力を発揮したかについて記述してください。専門家、スペシャリスト共通です。

審査は、まず必須項目についての審査を行います。ここで「発揮された」と判断されるコンピタンスの数が足りないと不合格となります。必須項目への配点と参考項目への配点には重み付けがされています。審査の際にはこれら必須項目と参考項目の両方の項目を合計評価し、一定基準以上の得点を最低条件として更に提出された関連資料などを参考にしながら総合的に合否を判定します。

C 参考資料

下記の資料は、合否判定の際の参考資料として審査時に参照されます。
記入事例サンプルを参考にして、できるだけ具体的にご自分の経験をアピールしてください。
アップロードできるファイルは、「C　参考資料」のエクセル形式ファイル１つのみです。C に記述した中で、一般には手にいれにくいカタログや機関誌などのコピーは、申請書一式郵送の際に添付してください。郵送された書類は返却いたしません。返却されなくても良い範囲・方法で申請してください。

C-1 教育受講履歴

・フォーマットに従い、大学、大学院等における教育受講履歴を記入してください。フォーマットに従い、HCD/UXD やユーザビリティに係る受講履歴を記入してください。研究会や学会での専門教育や研修や大学や大学院での単位に相当すると思われるものも記入してください。科目は関連する領域を含みますので、心理学、社会学、人間工学、統計学、量的分析、質的分析、など幅広い分野が該当します。ご自分が HCD/UXD やユーザビリティ活動を実践する際に参考となった科目などがありましたら記入してください。
・フォーマットに従い、セミナー・学会等で受講した HCD/UXD やユーザビリティにかかわる教育履歴を記入してください。社外、社内のセミナーを問わず関係のあるもの全てが対象です。

C-2 論文・著作

・HCD/UXD やユーザビリティ活動に関連するご自身の論文や著作を自由記述形式で書いてください。

C-3 作品、成果物

・公表・開示できるもので結構です。
・HCD/UXD やユーザビリティに関連するご自身のプロジェクトの作品や成果物を自由記述形式で書いてください。
・特許公報などはこの欄に記述してください。
・製品やサービスが流通しているのであれば製品，サービス名と、そのどこの部分を担当したかを成果として記載も可能です。

以上